

卒後5年目医師が考える 「プライマリ・ケアの基本的な診療能力」の必要性 横浜市立大学後期研修医を対象としたアンケート調査結果

青木 昭子¹⁾, 後藤 英司¹⁾, 石ヶ坪 良明¹⁾, 野口 和美²⁾

¹⁾ 横浜市立大学附属病院 臨床研修センター

²⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 臨床研修センター

要 旨：2009年と2010年の1～2月に卒後5年目の後期研修医を対象に臨床研修についての質問紙調査を実施した。

結果；226人中122人（54%）から回答を得た。専門研修のどの分野においても内科，外科の研修は役に立っており，大部分の医師が基本的診療能力は必要なものであると考えていた。

後期研修医の専門分野別に回答を解析すると，小児科医は小児科，精神科，産婦人科研修の有用性をより高く評価していた。

平成22年から必修は内科，救急，地域医療研修のみとなった。今後も調査を続け基本的診療能力の習得するために適切な臨床研修プログラムとはなにかを検討していきたいと考えている。

Key words: 後期研修 (Sinor residency), 臨床研修 (Clinical training), 基本的診療能力 (Core clinical skills), 質問紙調査 (Questionnaire survey)